



庭の桜のはなもみじ

平成22年 屋代
6月17日 小学校
春秋ごとに匂うなり

私のそばに置いておきたい自分だけの本 ~ 読書週間 16日(水)校長講話から ~

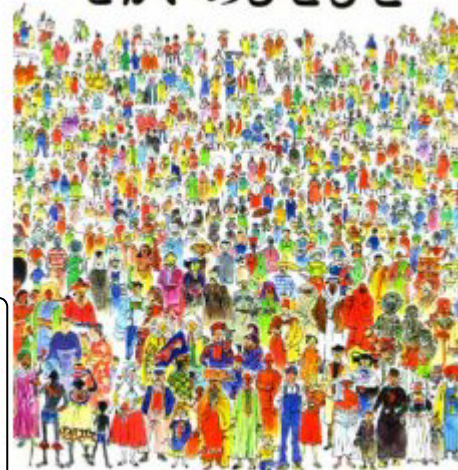
ワールドカップサッカーが始まりました。日本もおとなりの韓国も勝ちました。この大会を見ながら、一つの絵本を思い出しましたので、紹介します。

今、地球にはどのくらいの人がいるか知っている？
50億人以上！ それにこの本を読むのに1時間かかるとして、読み終わるまでに9000人以上も増えるんだ。1年したら何千万になるから、西暦2000年の地球の人口は60億人になるんだって。...

* 現在の人口は70億人近いといわれています。

【読み聞かせの内容】私たちのこの地球には、いったいどんな人たちが暮らしているんだろう？ 体の大きさ、肌の色、顔の形、住んでる家、好きな遊び、話す言葉...。世界にはさまざまな民族、風習、言語、文化などがある。そんなことで人を嫌っていませんか？ 何でも全部同じだったら死ぬほど退屈。

せかいのひとびと



作・絵 ピーター・スピアー
訳 松川 真弓 評論社

ほらね、私たちみんなそれぞれこんなに違うからステキでしょ？

おしまい。この絵本は、私のそばにいつも置いてある、大事な1冊の絵本です。元気がなくなったときや、友達とけんかをしたとき、仕事がうまくできないとき、また少しわがままになって人のせいになっている嫌な自分になったとき、人の悪口を言いたくなかったときなどに開いて読むと、元気が出たり、やさしくなったり、積極的にがんばる自分になれる絵本なのです。

図書館にしばらく置いておきますので、友達と静かに読んでみてください。



図書館のマナーを守って
たくさん本を読みましょう！

「せかいのひとびと」と同じように友達に自分の意見を伝えたり、いろいろな仕事を知ったりしながら読んでみよう！

学校の勉強ばかりに気をとられ、基本的な生活習慣が身に付かないままではいけないでしょうか。

整理整頓、金銭管理、身だしなみ、忘れ物をしない等は自立に欠かせないスキルです。発達障害のある子どもは、発達の偏りから、しっかりしているように見えて、意外とこうしたことができないことがあります。十分に手をかけられなかったり、親がすべてをやってあげてきたりした子どもにも、それと同じことが言えます。



生活面での自立に向けてお手伝いを



基本的な生活習慣の習得は、将来を見ずして、幼少期から日常生活の中で計画的に取り組んでいくことが大切です。右は、3歳ころまでに身につけておきたい事柄だそうです。

排せつ（決められた場所で、自分で排せつができる）
 食事（何でも食べること、食事のマナー）
 着脱（朝の着衣、トイレでの着脱、就寝前の着替え等）
 清潔の習慣（汚れや不衛生なことが分かり、整理されたきれいな環境を好み、自分で掃除や片づけができる）
 睡眠の習慣（朝、自分で目覚めて起き、必要に応じた昼寝、決められた時間に機嫌よく眠るような習慣）等

幼い子どもにとっては、日常生活での直接的な模倣を通して、生活習慣を身につけますから、親がよいモデルを示していくことが重要になります。

小学生になると、家事（洗濯物たたみ、食器洗い、部屋の掃除、風呂の掃除等）の手伝いに取り組むことが大切です。

一人で行うのが難しいことは、幼児期のように、最初は一緒に取り組み、徐々に援助を減らしていきます。あせらず、楽しみながら、丁寧にやり方を教えることも大切です。



そして、子どもを育てるには、知識よりも、愛情が必要。小さなことでも喜び、小さなことでもしかる。親から褒められたりしかられたりすることで、自分のやったことの価値が判断できます。子どもは、親に喜んでもらうことが、一番うれしいのです。そして、しかられたことは、納得できるのです。1つしかるためには、その前に10褒めておくことをお忘れなく。

将来の自立に向け、自分のことは自分で、そして、家族の一員として、頼られる自分になることが、胸をはって社会に出ていくための自信となります。